

調査内容

I	調 査 地	佐賀県武雄市 人口48,969人 面積195.40km ² H31.4.1現在
	調査月日	令和元年5月28日(火)
	調査事件	ICT教育について
	概 要	<p>(1) ICT教育の概要について</p> <p>2010年にiPadの発売を機にタブレットPCを市内の小中学校1校に40台、翌年2月には2校の4年生以上の全児童にタブレットPCを配備して授業等で使用を始める。2014年4月に全小学生に1人1台のタブレットPCを、2015年4月には市内の全中学校に整備し、武雄式反転授業「スマイル学習」を、小学2年生から中学3年生まで導入した。</p> <p>(2) 特徴ある取組について</p> <p>授業の前日にタブレットPCを家庭に持ち帰り、動画を活用した予習を行うことで、児童・生徒がより意欲的に翌日の授業に臨んでいる。予習を行うことで授業の中で、通常の授業より話し合いや学びあいなどを中心とした協働学習ができる。</p> <p>特徴ある授業として、「プログラミング教育」や「電子黒板とタブレットPCの連携」、インターネットを使ってのフィリピン講師と対話する「オンライン英会話」、「カメラ機能の活用」、「ドリル機能の活用」などの特徴ある取組を行っている。また、市内16校全校に各1名の支援員を配置している。</p> <p>(3) 取組後の効果について</p> <p>児童生徒は、予習や授業にも楽しく取組んでいる。教員は、指導方法の変化や改善があったと高く評価している。また、小学生の保護者は「スマイル学習」の効果を肯定的に考えている割合が増えた。また、障害者がタブレットを使うことで普通教室での学習が可能になった例や、教室に入れない生徒に保健室で遠隔授業を行う例も生まれた。</p> <p>(4) 今後の課題について</p> <p>学校により「スマイル学習」の実施率がまばらである。これからは教員に対するICT教育のスキルアップを行う必要がある。また、ICT教育の予算確保が難しくなっている。</p>
委員会の ま と め	武雄市では、すべての小中学校において児童生徒に1人1台のタブレットが配備されている。市の政策の中でも「ICT教育の推進」について、情報化社会への対応力の育成や、子どもた	

	<p>ちのいろいろな可能性を伸ばし、21世紀を生き抜く力を育むツールとして、非常に有効なものと捉えているが、支援員の委託経費や教員の指導力の育成も課題となっている。</p> <p>デジタル教科書導入にあたり最大の問題は、費用負担である。岩沼市は、教員の負担軽減、費用対効果等を慎重に検討しながら、今後ICT教育をすすめていくべきである。</p>
--	--

II	調査地	<p>福岡県飯塚市</p> <p>人口129,146人 面積213.96km² H31.4.1現在</p>
	調査月日	令和元年5月29日(水)
	調査事件	子育て支援について(緊急サポートネットワークについて)
	概要	<p>(1) 休日子育て支援の概要について</p> <p>保護者の仕事、冠婚葬祭、病気、介護等により日曜、祝日に家庭で看ることができない小学生児童を預かる事業。</p> <p>① 対象児童</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 小学1年生から6年生までの児童 ・ 飯塚市・嘉麻市・桂川町に住所を有する児童。または飯塚市内、嘉麻市・桂川町内に通う児童 ・ 病児または病後児でない児童 <p>② 料金</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 一人当たり(一回につき)5時間未満500円、5時間以上1,000円 <p>③ 場所</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 片島児童センター(飯塚市) <p>④ 実施日時</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 日曜日 午前8時から午後6時まで <p>⑤ 利用方法</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 初回利用時はお住いの市役所または町役場で申込が必要、2回目以降は電話予約、FAX申込も可 <p>(2) 取組後の効果と今後の課題について</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 効果は、仕事など緊急時の受け入れ先があり安心感がある。 ・ 利用者が少ないことが課題となっている。初年度の25年度は登録者22名で利用者数は14人、26年度は登録19名で利用79人、27年度は登録15名で利用33人、28年度は登録10名で利用49人、29年度は登録15名で利用28人。3市町による広域となった30年度は登録者が5名で利用者は20人となった。 <p>(3) 子育て短期支援の概要について</p> <p>保護者が家庭で就学前の子どもを養育することが難しくな</p>

		<p>ったとき、市が契約している施設で子どもを一時的に預かる事業。</p> <p>① 分類</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ショートステイ：宿泊 ・トワイライトステイ：平日の夜間、休日の昼間 <p>② 利用期間</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ショートステイ：一回あたり 7日以内 ・トワイライトステイ： <ul style="list-style-type: none"> 平日の夜間(午後5時からおおむね午後10時まで/原則4時間以内) 休日の昼間(おおむね午前5時から午後5時まで/原則8時間以内) <p>③ 料金</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ショートステイ <ul style="list-style-type: none"> 2歳未満児：5,350円、2歳以上児4,500円 ・トワイライトステイ <ul style="list-style-type: none"> 平日夜間1,000円、休日昼間1,500円 ※世帯所得に応じて減免が利用できる。 <p>(4) 取組後の効果と今後の課題について</p> <ul style="list-style-type: none"> ・効果は、仕事など緊急時の受け入れ先が有り安心感がある。 ・利用者が少ないことが課題となっている。事業実績は平成27年度が登録者数7人、ショートステイ利用児6人、利用日数20日、トワイライト利用はゼロ。28年度は順に3人、1人、1日でトワイライト利用児3人、日数3日。29年度は3人、2人、8日でトワイライトが2人2日。30年度は登録者数4人、ショートステイ利用児1人、1日でトワイライトが5人、5日となっている。 ・広域のため送迎も課題となっている。
	委員会のまとめ	<p>利用者は少ないようだが、利用している人にとっては切実な問題が解消されている点に意味がある。地味で細やかな事業だが、そういう行政は評価に値する。ニーズがあるのだから利用しやすくする工夫も必要になる。</p> <p>岩沼市においても、土・日・祝日の子育て支援の環境づくりが今後必要となってくると考えられる。今は、休日保育等の需要はあまりないと聞く。しかし、今後のことも考えて、休日に受け入れできる環境整備も必要であると考えます。</p>

Ⅲ	調査地	<p>福岡県古賀市</p> <p>人口59,308人 面積62.07km² H31.4.1現在</p>
	調査月日	令和元年5月30日(木)

	調査事件	不登校児童・生徒のサポートについて(不登校問題対策について)
	概要	<p>(1) あすなろ教室の概要について</p> <p>いろいろな事情から学校に行けなくなった古賀市立小・中学校に在籍する児童生徒への支援策。教育相談をはじめ、体験活動や自主活動を通じて、人間的成長と社会自立を促し援助する。そして、集団生活に適応できるように指導・援助しながら、児童生徒の学校復帰を目指す。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 平成 11 年 9 月 1 日開級 ・ 設置場所 古賀市古賀 278-1 市役所近隣 ・ 職員など 指導員 3 名(市嘱託員)、ヤングアドバイザー(大学生)2 名 <p>(2) 特徴ある取組について</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 古賀市では「日本一通いたい、通わせたい学校」を目指して、教育施策に力を入れており、小・中学校や子どもたちへの支援も充実している。 ・ 体験活動を多く取り入れている。「図書活動」は 1 カ月に 1 回、市立図書館に出向き今後の活動に役に立つ本を選んで 100 冊借り教室で読書を行う。「体験活動」では、トウモロコシやトマト等を育てる栽培活動や季節に合わせて七夕飾りや魚釣り、近隣道路の清掃、織物織りなどの体験活動を行っている。体験活動で大切にしたい力を身に付けるため、他の人との協調を保って生きるために必要とされる生活上のソーシャルスキル能力、家庭、学校、職場、社会といったあらゆるシーンで、他人との人間関係を円滑に構築するために非常に重要なコミュニケーション能力、調理の技術や雑巾の絞り方、準備、後片付け、掃除等の生活スキル能力等を指導している。また、食を大切にする取組も行っている。 <p>(3) 取組後の効果について</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 平成 30 年度の児童生徒は 17 名、29 年度は 7 名、28 年度は 9 名だった。体験活動や日常の生活の場で少しずつ笑顔が見えるようになった。 <p>在籍校に復帰したケースもあった。高校に進学した例もある。30 年度には公立高に 2 名、私立に 4 名(通信制含む)が入学した。29 年度は公立に 4 名(通信制含む)、28 年度は私立に 1 名だった。</p> <p>(4) 今後の課題について</p> <p>指導員の指導力の向上には終わりがないので、子どもたちに合った方向性を見出しながら、どのように学校へ復帰できるか。特別支援教育の更なるスキルアップを行っていかなく</p>

		<p>ればならないと考えている。また、更なる連携の強化として保護者、学校、教育委員会、スクールカウンセラー、医療機関等との必要な情報を共有して相談活動の充実を図っていく。</p>
	<p>委員会の ま と め</p>	<p>不登校児童・生徒支援はとても重要な課題である。岩沼市では今年度から心のケアハウス事業を展開することになった。そこで、あすなろ教室で行われているようにヤングアドバイザーを活用することも必要であると考え。勤労者活動センターで行われるが、来館者がとても多い施設の中での実施となることから、状況をしっかり把握し、子ども達の心の負担にならないように配慮すべきである。</p>